



障がいのある人、ない人との 間で継続的な社会との交流を 増やすには？

2025上田未来会議
第3グループ 「福祉」

導入

私たち福祉グループのメンバー内には知的障がいがある方があり、どう接して良いかわからなかった。

障がいの有無に関わらず、手伝ってほしいことをメンバー内で共有しあい打ち解け合うことができた。

障がいを持つ人と関わり合う中で、特別な枠組みではなく、一人の人として接することができた。

問題

- ▶ 障がいがある方が何かに困った時、
手伝ってほしいと言いたくない社会。
- ▶ 障がいがある方が困っていても、
どうサポートをすれば良いのかわからない
社会。
- ▶ 障がいがある方とそうでない人同士が、
お互いのことをよくわかっていない社会。

目標

- ▶社会全体が他者に対してやさしくなること。
- ▶障がいがある方とそうでない人同士が
自然な関わりの中でお互いを知ること。

ここが重要!!

課題

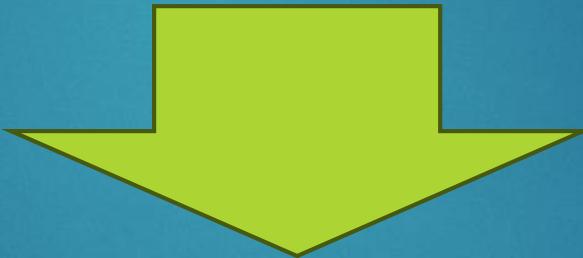
障がいがある方が
困っているときに
サポート方法を
知っている社会にする。

障がいがある方の
人柄を知れる機会が
十分にある社会にする

障がいがある方が
自分の困っていること
を発信しやすい
社会にする。

生きにくさがある方とは

- ▶ 外国人、認知症、不登校、ひきこもり、性的マイノリティー、
身体・知的・精神・発達障がい者、宗教、アレルギー、
ヴィーガン、真面目過ぎて疲れる人、気を使いすぎる人、
視力が悪い人、耳が遠い人、など



どんな人にも当てはまる！

解決策

- ▶当事者と直接会って、
思いを知る機会を作る
- ▶当事者が困っていること、生活の様子を
SNSなどで発信する
- ▶啓発イベントを開催する。

出会って



知り合って



混ざり合う

感想

合 混 比